

春日井

建

発表者氏名 ○組

西海達也

【作品解釈】(○番)

今われは若者なれば霧のなか蛇皮の服をまどふに似つつ 所収『行け帰ることなく』

★語句と文法

「若者なれば」…「なれ」は **断定** の助動詞「なり」の已然形。

已然形+「ば」で **順接の確定条件** を表す。「ゝので」「ゝから」

「皮」…動植物などの外面覆い包むもの。「表皮」の意。

(「革」…動物の皮をなめして加工したもの。)

「まとう」…身につける。着る。

「つつ」…接続助詞。①一つの動作と同時に他の動作を行う意を表す。

②互いに両立しにくい二つの事態が同時に成立する意を表す。

③あることが実現しようとしている意を表す。

④ある動作・作用が **継続** している意を表す。

⑤動作・作用が繰り返し行われる意を表す。

★通釈

今俺は、若者であるので、まるで周囲が見えないほどの霧の中で、蛇皮の服を着ているのに似て、すべてのものに刃向かっている。

【作品鑑賞】

この世に生きていることへの、魂がヒリヒリと、擦りむけるような渴きと寂しさが表現されている。——【参考資料①・A】より

「霧の中」は「五里霧中(どうすべきかの判断に迷い、方針が全く立たないこと)」や「暗中模索(手がかりのないまま、いろいろと打開策を試みたり探し求めること)」の四字熟語を想起させながら、明るい将来が見えないために、他者に対する**情容赦がない**と解釈できる。

「蛇皮の服」も「革」ではなく「皮」であることから **生々しさ・獣性** が感じられ、「蛇」が象徴する、**執念深さ**やどんなものでも呑み込んでしまう**貪欲さ**がこめられている。そしてまた、脱皮をすることによって**更なる変容**が暗示されていて興味を誘う。

こうした社会全体に対する **敵対心や不信任** は、若者特有の、「**悪への憧れ**」であり、つっぱって生きなければならぬ **悲しさ** を感じさせる。

【作者紹介】

★略歴 一九三八年十二月二十日愛知県で誕生。二〇〇四年五月二十二日逝去。

★歌集と代表作 『未青年』『行け帰ることなく』『夢の法則』『青葦』など

蒸しタオルにベッドの裸身ふきゆけばわれへの愛の棲む胸かたし (『未青年』一九六〇年)

両の眼に針射して魚を放しやるきみを受刑に送るかたみに (同右)

ポーランドのやさしき空へ応へせむその指ほそき含羞草のシヨパン (『行け帰ることなく』一九七〇年)

星空のカムパネルラよ薄命を祝ふ音デイスク盤のごと風は鳴る (『夢の法則』一九七四年)

青嵐過ぎたり誰も知るなけむひとり維新といふもあるべく (『青葦』一九八四年)

★主な業績・エピソード

十七歳頃から父である春日井瀆が主宰する機関紙『短歌』に作品発表。

一九六〇年、塚本邦雄・岡井隆・寺山修司らと『極』を創刊。

第一歌集『未青年』の序文は三島由紀夫が執筆。【参考資料②】より

写真家の浅井慎平や版画家の加納光於と親交。【参考資料①・B】より

女流歌人の水原紫苑の師匠。【参考資料⑤】より

【参考資料】

① 『アサヒグラフ 増刊昭和短歌の世界(一九八六年十二月・朝日新聞社)』より

A 「愛の歌——戦後青春群像の十一人(河野裕子)」

B 「第一歌集のころ(春日井建)」

② 『現代短歌の鑑賞101(小高賢・一九九九年五月・新書館)』

③ 『現代歌人文庫 春日井建歌集(春日井建・一九七七年六月・国文社)』

④ <http://www.tanka.org/syukan.html>

⑤ 読売新聞 二〇〇四年十二月十二日版「時の葉——春日井建『未青年』水原紫苑〈抜粋〉」